

経営者のマインド変化

新市場スタートから半年

東証改革 成果と課題 ①

各市場のおもな上場基準

| | プライム | スタンダード | グロース |
|----------|---------|--------|--------|
| 株主数 | 800人以上 | 400人以上 | 150人以上 |
| 流通株式数 | 2万単位以上 | 2千単位以上 | 1千単位以上 |
| 流通株式時価総額 | 100億円以上 | 10億円以上 | 5億円以上 |
| 流通株式比率 | 35%以上 | 25%以上 | 25%以上 |

「上場企業の経営者」「上場ルール」と揺るぎなく定着している。日本取引所グループ(JPX)が統一された。プライムと全体の1割に達し、最高経営責任者(CEO)が統一的な役割を担っている。このうちプライムでは新市場スタートから半年の節目を総括する。東証1部は新規上場基準が時価総額250億円以上、プライムは10億円未満に適合してならず、経過措置を適用する企業以上。50%以上株価が1.5倍に上昇し、一度上場した企業は25%以上の上場停止にならない。

PBR 1 倍割れ課題 価値底上げ急務

課題も見えてきた。株主総額資産倍率(PBR)1倍割れの企業がプライムの50%、スタ

「上場企業の経営者」「上場ルール」と揺るぎなく定着している。日本取引所グループ(JPX)が統一された。プライムと全体の1割に達し、最高経営責任者(CEO)が統一的な役割を担っている。このうちプライムでは新市場スタートから半年の節目を総括する。東証1部は新規上場基準が時価総額250億円以上、プライムは10億円未満に適合してならず、経過措置を適用する企業以上。50%以上株価が1.5倍に上昇し、一度上場した企業は25%以上の上場停止にならない。

東京証券取引所が市場再編し、取引を開始して4日半年を迎える。半年前と比較して時価総額や出来高は倍増とどまり、海外投資家が買い回りを増やす動きはみえていない。一方、資本政策を積極化する上場企業が増えるなど、変化の兆しは見え始めた。価値は大幅な底上げが必要な状況で、さらなる改革が求められる。

基準適合へ資本効率意識

（最終面に関連記事）

再編前

| 市場第1部 | 市場第2部 | ジャスダック | マザーズ |
|-------|-------|--------|------|
| 2177社 | 475社 | 686社 | 432社 |

再編後

| プライム市場 | スタンダード市場 | グロース市場 |
|--------|----------|--------|
| 1839社 | 1466社 | 466社 |

出所：東証資料(再編前は4月3日時点、再編後は4月4日時点)

価値を毀損していると指摘する。PBR 1倍割れの企業は、流動性維持基準に近い企業は資本効率を意図して投資家へのアピールが乏しい。本来は企業が自主的に取り組むべきだが、それを促す制度面の担保も必要だ。市場改革に重い課題が突きつけられている。